

病 院 だ よ り

DPCと医療の質について

飯田 秀夫

内視鏡診断と治療

横山 顕礼

しんぜん院外健康教室

国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1
TEL 045(813)0221 (代表)
FAX 045(813)7419 (庶務課)

URL <http://shinzen.jp>

国際親善総合病院看護部
モバイルサイト



D P C と医療の質について

D P C 【Diagnosis (診断) Procedure (手技) Combination (組み合わせ) の略】とは従来の診療行為ごとに計算する「出来高払い方式」と異なり、入院患者さんのご病気とその病状を基に国で定めた1日当りの定額の点数からなる包括評価の範囲(投薬料、注射料、入院料等)の費用と出来高評価の範囲(手術料、麻酔料等)の費用を組み合わせで医療費を計算する方式です。

D P C 対象病院は1,334病院(平成22年4月現在)にのぼり、急性期病院の大半で行われています。

当院でも、平成21年7月1日よりD P C の医療制度に従い医療費の請求を行っており、手術・リハビリテーションおよび内視鏡治療など以外は、包括評価方式(定額制)であります。ただし、自費診療(自然分娩等)

や労災保険にて入院される方、厚生労働省が定めた病名以外の方、一定期間以上入院の方、外来診療のみの方などは、このD P C の対象とはならず、従来通り出来高計算となります。また、高額療養費の取り扱いは従来通り変更はありません。

簡単に言うと、全国のD P C にて医療費算定を行っている病院において、ある病気にて入院する場合、手術等の治療費以外は、その病気における日本での平均入院期間内では定額になっているということです。

当院としては、その時点における最新・最良の内科的治療・手術等の治療を模索・実践し、治療後、感染等の合併症がないように最善を尽くし、質のよい医療を提供しなければならないと実感しております。

今後も、当院の理念「良質・親切・信頼される医療」にのっとり、質の高い医療を遂行して行くよう努力して参りますのでよろしくお願いたします。

副 院 長

D P C ・保険委員長 飯田 秀夫



内視鏡診断と治療

= 拡大内視鏡診断を中心に =

近年、テレビと同様に、内視鏡もハイビジョン化されただけでなく、ボタン1つで瞬時に最大約80倍まで拡大することが可能な拡大内視鏡が普及してきました。さらに内視鏡診断の向上を目指し本邦で開発されたNarrow Band Imaging(NBI; オリンパス社)等の画像強調イメージングといわれる技術を組み合わせることにより、特に咽喉頭や食道のような扁平上皮領域において、早期病変の発見が可能となり、消化器領域の内視鏡診断は、烈火のごとく変貌し、進歩しています。当科では、最新の内視鏡機器を導入し、大腸を検査する下部内視鏡検査だけでなく、咽喉頭・食道・胃・十二指腸を検査する上部内視鏡においてもNBI機能を搭載した内視鏡機器を導入し、拡大観察も加味した内視鏡診断を日々行っています。今回の健康懇話会では、当院での内視鏡診断をご紹介します、更に、内視鏡診断に基づいて行われた内視鏡治療もご紹介します。

まず、大腸における拡大内視鏡診断は、現昭和大学横浜市北部病院消化器センター教授である工藤進英教授が、オリンパス社と産学協同で開発し、日本国内だけでなく世界に向けてその有用性を発信してきました。具体的には、検査時にポリープが見つかった際にそのポリープが良性なのか悪性であるのか、また、悪性であれば内視鏡的に切除できるものなのか、腹腔鏡等の手術が望ましい病変であるのかを内視鏡所見から判断し、正確な内視鏡診断に基づいて治療することが可能です。また、咽喉頭・食道では、前述したようにNBIを使用することにより、癌を含めた腫瘍性病変が早期の段階で発見可能になりました。また、治療の必要性、そして、大腸と同様に治療方針の決定にも有用です。以上のことを中心に健康懇話会では、当院での内視鏡診断の実際を治療と合わせてご説明します。

内視鏡室長
消化器内科医長 横山 顕礼

ご案内

このテーマは

平成23年1月14日(金) 15:00~約1時間の健康懇話会にて

講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

第2回

しんぜん院外健康教室

開催日時 平成23年1月26日(水) 10:00~11:30

開催場所 横浜市中川地区センター 2階中小会議室

テーマ 狭心症・心筋梗塞にならないために

講師：国際親善総合病院循環器内科部長 有馬瑞浩

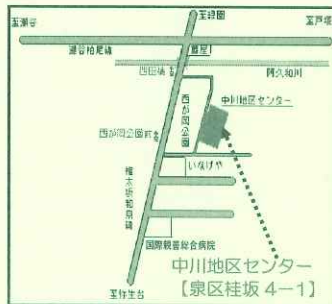
(日本内科学会総合内科専門医・日本循環器学会専門医)

心臓は全身に血液を送り出すポンプの働きをしていますが、この心臓の筋肉を養う栄養血管である冠動脈の内腔が狭くなると狭心症が起き、閉塞すると心筋梗塞が起きます。原因は動脈硬化で、これを促進する代表は、高血圧症、脂質異常症、糖尿病、肥満、そして喫煙です。これらの治療には薬物療法が重要ですが、減量、節酒、減塩に努め、適度な運動と禁煙などの生活習慣の改善も大切です。アメリカでは狭心症・心筋梗塞は飛び抜けて多いことから、わが国においてライフスタイルが欧米化するに伴って今後さらに増加することが考えられます。心筋梗塞が起きると色々な合併症を併発して命を落とすこともあります。予防には冠動脈硬化を防ぐことが一番ですが、今回はその診断方法や治療についてもお話したいと思います。

みなさまへ

『しんぜん院外健康教室』は、地域の皆様を対象として疾患予防と健康増進のために開催しておりますので、お気軽にご参加ください。

当日受付
参加費無料



 国際親善総合病院

【お問い合わせ先】 庶務課 木村

TEL: 045 (813) 0221 (内線 2274)